

1. 消防団員の報酬・出勤手当をはじめとした適切な処遇のあり方

消防団員の労苦に報い、団員のモチベーション向上や将来の団員確保につながる処遇の改善が必要

① 出勤手当

- ・ 消防団の活動実態を踏まえ、相応の額を支払うべきではないか（特に災害時の出勤時）。
- ・ 交付税単価ではなく、国が支払額の基準を示すことで、自治体も額を設定しやすくなるのではないか。
- ・ 費用弁償であるという条例準則上の位置づけについても検討が必要ではないか。

② 支給方法

- ・ 支給実態調査を踏まえ、年額報酬・出勤手当の団員本人への支給を更に徹底すべきではないか。

③ その他

- ・ 年額報酬についてもベースアップが必要ではないか。
- ・ 消防団活動に必要な経費については、自治体が予算化するよう徹底すべきではないか。

2. 広報の充実（周囲の理解、社会的評価の向上、社会全体で応援していこうという雰囲気づくり）

処遇を改善するだけでは社会の理解が得られないため、「1」とあわせて消防団やその活動について広報を充実させ、国民の理解を得ていく必要

- ・ 入りたいと思える魅力、入ってよかったと思えるやりがい等を積極的にアピールすべきではないか。
- ・ 周囲から評価される機会を増やすべきではないか。
- ・ 市町村外に通勤する人たちに対しては、地元消防団に加入することに対する通勤先の理解も得られるような仕組み作りが必要ではないか。

3 社会状況の変化にあわせた消防団改革

- ・ 消防団の活動内容等を明文化し、不明瞭をなくしていかなければいけないのではないか。
- ・ 訓練等についても、見直しを行っていくべきではないか。
- ・ 消防団組織が地域の一番若い層のコミュニティとなることを再認識する必要があるのではないか。
- ・ 無理をして団員数を確保するのではなく、少数精鋭の組織とするなど抜本的な検討も必要ではないか。

4 従前の取組の再周知・フォローアップ

- ・ 消防団協力事業所表示制度や学生消防団活動認証制度などの取組について、再周知を図るとともに、未導入の団体についてフォローアップしていく必要があるのではないか。
- ・ 女性消防団用の詰所や、詰所へのWi-Fiの設置など、団員の活動環境の整備が必要ではないか。

検討会前半（三月頃まで）

検討会後半（夏頃まで）